50. 三省堂新書 94　地盤沈下－しのびよる災害－

柴崎達雄著
共立出版（1971）
A6 判　p .205
定価 280 円

目　次

１．ゼロメートル地帯異変
大都会の無酸素空間、大都会の砂漠化、地下水の塩水化、ゼロメートル地帯の出現、巨大災害への警告
２．ゼロメートル地帯の論争 ―地盤沈下論争―
戦前の地盤沈下論争、おそすぎた地盤沈下対策、戦後の地盤沈下論争
３．ゼロメートル地帯の地下水
地下水の会計簿づくり、流れを変えた地下水
４．ゼロメートル地帯の地盤
化石谷の発見、地盤図のはしり、軟弱地盤の自然史、第四紀という地質時代
５．ゼロメートルからの脱出
地下水盆のマネジメント、地下水の揚水規制と許容量、人工地下水、公害問題と科学運動
あとがき
参考文献

紹介コメント

本書が出版されたのは、公害対策基本法（1967 年、昭和 42 年）が制定されてから 4 年後の昭和 46 年。中央公害対策審議会地盤沈下部会で地盤沈下が諮問されていた頃である。

時代はその後、地下水の公水化や地下水の統合管理案の議論を踏まえ、1985 年（昭和 60 年）の濃尾平野地盤沈下防止等対策要綱決定へと進んでいく。

公害とは何なのか。科学者として現象のメカニズムを解剖するとはどうゆうことなのか。ゼロメートルという用語が章タイトルのすべてに入っており、筆者の強烈な主張の一端をかいまみることができる。

東京駅や上野駅で地下水位が回復し、地盤沈下が過去の出来事のように感じられる昨今、豊富な事例や洞察にもとづき、そのメカニズムや恐ろしさを教えてくれる一冊。

発行：公益社団法人　日本地下水学会
市民コミュニケーション委員会(通称：とりきち委員会)